

# 教育研究業績書

令和 6 年 3 月 31 日

氏名 重村 幹夫

著書、学術論文等の名称	単著、 共著の 別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
(学術論文) 1) 画塾彰技堂の講義録『布置経営』と画学類纂『絵事三要－布置法』との関係について－英語原書を元にした比較による－(研究紀要)	単著	平成 26 年 3 月	仁愛女子短期大学研究紀要第 46 号、仁愛女子短期大学 (p. p. 53-62)	「布置経営」及び「絵事三要－布置法」は、油画解説書であり、画塾彰技堂主、本多錦吉郎による同一英語原書からの翻訳である。「布置経営」の 7 年後に「絵事三要－布置法」が出版された。原書を基準に 2 つの翻訳の関係を調べることで、彰技堂の学習環境や、油画受容事情の参考になるのではないかと考えた。その結果、先行研究の通り全く違い関連が無いことが確認された。また、「布置経営」には、彰技堂での学習のあり方を考える上で興味深い、原書には無い塾生による追加記述が多くあった。これらは、原書の内容を咀嚼理解する上で有益であるだけでなく、発展的な記述であると考えられる。
2) 画塾彰技堂の講義録『画図中ノ明暗』と英語原書の比較について(査読付)	単著	平成 28 年 3 月	美術教育学研究第 48 号、大学美術教育学会 (p. p. 217-224)	画塾彰技堂の講義録『画図中ノ明暗』は、本多錦吉郎が、John Burnet の原書を彰技堂で訳述講義したものである。本考察では、原書を基準に『画図中ノ明暗』の翻訳の傾向を調べた。その結果、明治初年の段階では、原書の引用作品の実物を参考にすることができず、参考図版も不鮮明な場合もあり、本多にとって翻訳が困難で、間違えたり省略したりした部分も見られた。しかし、全体としては Burnet の意図をよく汲み取った翻訳であると言える。油画技法の翻訳に対しても深い理解が見られた。そして、本多の翻訳には洋画理論の理解にとどまらず、英語概念を日本語に取り入れていきたいという思いが感じられた。また、必要に応じ洋画理論と直接関係のない内容の省略を行い、追加記述をして、画塾の講義資料として塾生の理解を助けるための配慮がなされていた。
3) 保育者養成課程における造形教育実践についての一考察 - 保育環境に必要な造形の基礎技能の習得を中心に - (研究紀要)	単著	平成 29 年 3 月	仁愛女子短期大学研究紀要第 49 号、仁愛女子短期大学 ( p. p. 59- 67)	保育者養成課程における造形教育実践について考察した。本考察は、幼児への援助のための「設定遊び」の中の「造形表現」内容を主に記したのではなく、筆者がこれまで行ってきた、保育者として求められる保育環境に必要な造形上の基礎技能の習得の実践について記したものであ

				る。内容は、デッサン、色彩理論の基礎。抽象絵画、ダンボールの工作に大別され、それぞれの基礎技能習得の意義と、その実践についての考察を行なった。
4) 0～2 歳児の造形表現活動とその教育的意義について	単著	平成 30 年 3 月	福井県内保育者対象アンケート調査報告書	仁愛女子短期大学共同研究調査報告書。3 歳以下の子どもでは、自己の物への関わりの行為と結果を確かめる触覚的探索活動が見られ、4～5 歳児には、目的をもった知的探索活動が主に見られるが、実際の幼児の活動は、触覚的探索活動と知的探索活動が複雑に関わっている。 (pp. 77-79) 共著者：増田翼、内田雄、江端佳代、山下清美、木下由香、重村幹夫、乙部貴幸、中尾繁史、野本尚美、田中洋一、前田敬子、香月拓、後久真嗣、賞雅さや子、松川恵子
5) 児造形活動における「見立て」に関する一考察(研究紀要)	単著	平成 30 年 3 月	仁愛女子短期大学研究紀要第 50 号、仁愛女子短期大学 (p. p. 69-76)	研究紀要。「見立て」は、言葉の発達や経験によるイメージの蓄積と関係があり、その重要性は明らかである。幼児にとって、五感を使った探索活動を伴う活動の中で喚起される「見立て」と「仕立て」との複合的な往還の過程で、新たに作り直されるイメージが、「新しい意味生成」としての創造行為であると考えられる。
6) “John Burnet , Practical hints on light and shade in painting, 1829” の翻訳について	単著	平成 31 年 4 月	仁愛女子短期大学研究紀要第 51 号、仁愛女子短期大学 (p. p. 71-90)	研究ノート(研究紀要)。 “John Burnet, Practical hints on light and shade in painting, 1829” を翻訳し、その全文を掲載した。また、原書の図版は、不鮮明であるので、特定できたものは、鮮明な図版に差し替えた。また、参考図版を追加した。
7) “John Burnet, Practical hints on colour in painting, 1830” の翻訳について	単著	令和 2 年 3 月	仁愛女子短期大学研究紀要第 52 号、仁愛女子短期大学 (p. p. 91-126)	研究ノート(研究紀要)。 “John Burnet, Practical hints on colour in painting, 1830” を翻訳し、その全文を掲載した。また、原書の図版は、不鮮明であるので、特定できたものは、鮮明な図版に差し替えた。また、参考図版を追加した。
8) コロナ禍における実技・演習系の面接授業について	単著	令和 3 年 3 月	2020 年度ブランディング事業『報告書』保育者養成のこれから～キャリア・ルーブリックの作成とコロナ禍における養成の在り方～	コロナ禍における造形の面接授業設定の実践報告。
9) “Aaron Penley, SKETCHING FROM NATURE IN WATER COLOURS, 1870” の翻訳について	単著	令和 3 年 3 月	仁愛女子短期大学研究紀要第 53 号、仁愛女子短期大学 (p. p. 71-98)	研究ノート(研究紀要)。 “Aaron Penley, SKETCHING FROM NATURE IN WATER COLOURS, 1870” を翻訳し、その全文を掲載した。内容は風景水彩スケッチの技法、技術の解説であり、風景スケッチを描くうえ

10) 画塾「彰技堂」の講義録「水彩寫景指南」と英語原書の比較について -技法・材料の観点から-	単著	令和5年3月	仁愛女子短期大学研究紀要第55号、仁愛女子短期大学(p.p. 25-33)	で有意義である。  研究紀要。筆者は、これまで明治初年の油画受容や技法・材料事情を考察してきた。ここでは、「水彩寫景指南」と英語原書の比較を行い、その翻訳の傾向からこれまでと同様に考察した。その結果、明治17年(1884)2月より前の画塾「彰技堂」主、本多及びその翻訳の読者、塾生周辺の油画・技法材料環境は、筆者がこれまで考察してきたように、その理解は進みつつあったが、必ずしも容易に入手できない状況が続いていたと考えられる。
11) 画塾「彰技堂」の講義録『チ、ハットン』氏水彩実景模寫法」と英語原書の比較について	単著	令和6年3月	仁愛女子短期大学研究紀要第56号、仁愛女子短期大学(pp. -)	研究紀要。英語原書と翻訳の傾向の分析を通じて、明治初年の洋画受容について推測した。
(その他) <作品制作> 1) 変容Ⅰ	単著	平成24年6月	2012北陸二紀展、金沢県立美術館	F130号(162.0×194.0cm)、混合技法、パネル。 オールオーバーに近い構図を用いて、中央に大きな量を描いた作品。
2) 変容Ⅱ	単著	平成24年10月	第66回二紀展、国立新美術館	F130号(194.0×162.0cm)、混合技法、パネル。 縦構図で、中央に左右対称の大きな量を描き、神聖な感じが出るようにした。
3) 変容	単著	平成25年2月28日～3月6日	第3回UNI展 - 8人の視座 -、ギャラリー絵夢	画廊企画。 F100号(162.0×130.3cm)、混合技法、パネル。 全体をオールオーバーに近い平面的な構図とした。中心に渦のような形を描き、幻惑するような表現とした。
4) 「変容Ⅲ」	単著	平成25年3月10日～3月17日 5月14日～5月19日	第11回春季二紀展、東京都美術館 2013年春の北陸二紀展、金沢21世紀美術館	F120号(194.0×162.0cm)、混合技法、パネル。 中央下部に円形を置き、周囲に拡散するムーブマンを与えた作品。
5) 「変容Ⅰ」	単著	平成25年10月16日～10月28日	第67回二紀展、国立新美術館	F130号(194.0×162.0cm)、混合技法、パネル。 祭壇の形状を中央に描き、左右に垂直の形体をシンメトリーに加えた。
6) 「変容Ⅱ」	単著	平成26年8月5日～8月10日	2014北陸二紀展、金沢21世紀美術館	F130号(194.0×162.0cm)、混合技法、パネル。 垂直方向の上昇感を強調して描いた作品。
7) 「変容Ⅰ」	単著	平成26年10月15日～27日	第68回二紀展、国立新美術館	F130号(162.0×194.0cm)、混合技法、パネル。 オールオーバーに近い構図を用いた作品。無作為に置いた絵の具から、環状の形体を描き出した。

8) 「変容Ⅰ」	单著	平成 27 年 8 月 4 日～9 日	2015 北陸二紀展、金沢 21 世紀美術館	F130 号(162.0×194.0cm)、混合技法、パネル。 オールオーバーに近い構図から、球状の形体を描き出した。
9) 「変容Ⅱ」	单著	平成 27 年 10 月 14 日～26 日	第 69 回二紀展、国立新美術館	F130 号(194.0×162.0cm)、混合技法、パネル。 オールオーバーに近い構図にストロークを用いた作品。
10) 「森Ⅰ」	单著	平成 28 年 8 月 9 日～13 日	2016 北陸二紀展、金沢 21 世紀美術館	F120 号((112.0×194.0 cm)、鉛筆、パネル 池田町の森林風景を描いた作品。
11) 「森Ⅱ」	单著	平成 28 年 10 月	第 70 回二紀展、国立新美術館	F120 号((112.0×194.0)、鉛筆、パネル 池田町の森林風景を描いた作品。
12) 「森」	单著	平成 29 年 8 月 平成 29 年 10 月	2017 北陸二紀展、金沢 21 世紀美術館 第 70 回二紀展、国立新美術館	F130 号(194.0×162.0 cm) 鉛筆、パネル。 池田町の森林風景を描いた作品。
13) 「森Ⅰ」	单著	平成 30 年 8 月	2018 北陸二紀展、金沢 21 世紀美術館	F130 号(162.0×194.0cm)、混合技法、パネル。 幻想的な森と人物を組み合わせた作品。
14) 「森Ⅱ」	单著	平成 30 年 8 月 平成 30 年 10 月	2018 北陸二紀展、金沢 21 世紀美術館 第 71 回二紀展、国立新美術館	F130 号(194.0×162.0 cm) 鉛筆、パネル。 池田町の森林風景と人物を組み合わせた作品。
15) 「冬の日」	单著	平成 31 年 3 月	第 14 回春季二紀展	F120 号(194.0×162.0cm)、混合技法、パネル。 草の生えた地面を描いた作品。
16) 「池田町の山」	单著	令和元年 7 月	2019 北陸二紀展、石川県立美術館	F130 号(162.0×194.0cm)、混合技法、パネル。池田町の森林風景。
17) 「樹木」	单著	令和元年 10 月	第 72 回二紀展、国立新美術館	F130 号(162.0×194.0cm)、混合技法、パネル。河川堤防の樺を描いた作品。
18) 「池田町の山」	单著	令和 3 年 6 月 令和 3 年 10 月 令和 4 年 4 月	2021 北陸二紀展、石川県立美術館 第 74 回二紀展、国立新美術館 第 44 回カカ斜展、福井県立美術館	F130 号(194.0×162.0cm)、混合技法、パネル。池田町の森林風景。
19) 「池田町の森」	单著	令和 3 年 6 月	2021 北陸二紀展、石川県立美術館	F130 号(162.0×194.0cm)、混合技法、パネル。池田町の森林風景。
20) 「森」	单著	令和 4 年 3 月	第 15 回春季記念二紀展 東京都美術館	F120 号(194.0×162.0cm)、混合技法、パネル。幻想的な森林風景。
21) 「美山町の杉」	单著	令和 4 年 7 月	2021 北陸二紀展、石川県立美術館	F130 号(162.0×194.0cm)、混合技法、パネル。美山町の森林風景。
22) 「九頭竜川」	单著	令和 4 年 10 月	第 75 回二紀展、国立	F120 号(194.0×162.0cm)、混合技法、

23)「5月」	单著	令和5年4月	新美術館 第45回カカ斜展、福 井県立美術館	パネル。幻想的な風景。
24)「7月」	单著	令和5年6月	第75回記念二紀展金 沢展、金沢21世紀美 術館	F130号(162.0×194.0cm)、混合技法、 パネル。幻想的な森林風景。
25)「5月(小)」	单著	令和5年10月	第76回二紀展、国立 新美術館	F130号(162.0×194.0cm)、混合技法、 パネル。幻想的な森林風景。
25)「5月(小)」	单著	令和6年3月	第16回春季記念二紀 展 東京都美術館	F50号(116.7×91.0cm)、混合技法、 パネル。幻想的な植物
(その他) 〈口頭発表〉				
1) 画塾彰技堂の講義録 『布置経営』と画学類纂 『絵事三要一布置法』と の関係について一英語原 書を元にした比較による 一	単独	平成26年10月	大学美術教育学会福 井大会研究(口頭発 表)概要集 p.59	本発表は、「仁愛女子短期大学研究紀 要」,第46号,pp53-62,2014にて執筆 発表したものを、再度口頭発表した ものである。
2) 画塾彰技堂の講義録 『画図中ノ明暗』と英 語原書の比較について	単独	平成27年9月	大学美術教育学会横 浜大会研究(口頭発 表)概要集 p.76	本発表は、同一題目の論文を、美術教 育学研究第48号(217-224頁)に投 稿、掲載する前に口頭発表したもの である。
3) 幼児造形活動におけ る「見立て」に関する一考 察 (単独発表)	単独	平成30年3月	美術科教育学会滋賀 大会研究発表概要集 p.74	本発表は、「仁愛女子短期大学研究紀 要」,第50号,pp69-76,2018にて執筆 発表したものを、再度口頭発表した ものである。
4) 画塾「彰技堂」の講 義録「水彩寫景指南」と英 語原書の比較について 一技法・材料の観点から 一	単独	令和6年3月	美術科教育学会弘前 大会研究発表概要集 p.22	本発表は、「仁愛女子短期大学研究紀 要」,第55号, p. p. 25-33, 2023にて 執筆発表したものに加筆して、再度 口頭発表したものである。